



率先避難・呼びかけ避難 体制づくりの進め方



山口県



【今日お話しすること】

<取組趣旨説明>

- ①取組の必要性(経緯と目的)
- ②地域や自宅の危険度(災害リスク)を知る

<具体的な取り組み方>

- ③避難に関する情報をどうやって知ればいいのか
- ④率先避難・呼びかけ避難の体制づくり
- ⑤避難訓練

災害からの「逃げ遅れゼロ」に向けて

平成30年7月豪雨の状況・課題等

- 災害リスクが高いと公表していた地域で死亡事案が発生
 - 居住地の災害リスクが認識されていないケースが多い
 - 「危ない」と感じて、48.7%の者は避難行動をとっていない
- 避難行動をとらなかった主な理由は、「避難しなくてもよい場所に自宅があるから」「これまで大丈夫だったから」など

- ハザードマップや避難先の確認、地域の災害発生履歴等の伝承が必要
- 人は「自分は大丈夫」という思い込み（正常性バイアス）に陥りやすいが、知り合いからの避難の呼びかけがあったり、周りの人が逃げている姿を見ると、避難行動を起こしやすい

取組

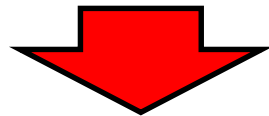
災害リスクを抱える地域で、地域住民による自主的な避難体制づくりを、県と市町が一体となって推進

- 地域の災害リスクを再確認
- 呼びかけ避難や率先避難のための体制づくり
- 避難を牽引する地域防災リーダーの設定
- 地域における継続的な避難訓練



避難のポイント

- 避難行動を取るきっかけ
→ 身近な人の呼びかけが非常に有効
- 避難のタイミング
→ 皆さんが考える避難のタイミングよりも、もっと早く避難する必要性



早いタイミングで、地域で呼びかけ合い避難

【避難体制づくりの流れ】

実地説明会（住民対象）

～住んでいる地域や
我が家の災害リスクを知ってもらう～

本日の説明

グループづくり

～災害リスクの高い地域に住んでいる
住民で「呼びかけ避難グループ」をつくり、
リーダーを決める～

可能なら名簿をつくり、
漏れのないように確認する

呼びかけ避難訓練

～訓練後は振り返りを行い、
よりよい体制づくりを目指す～

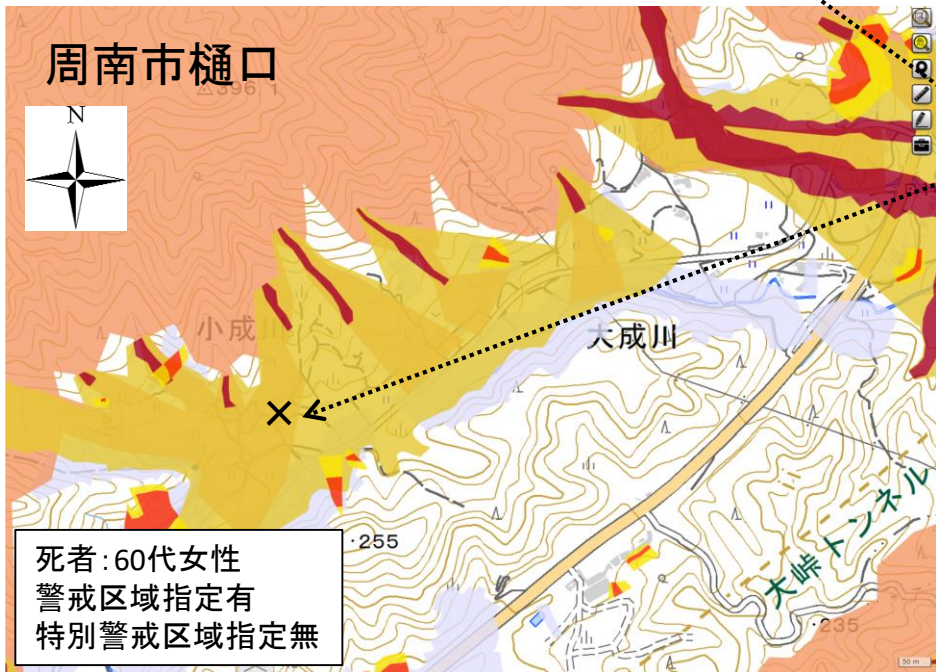
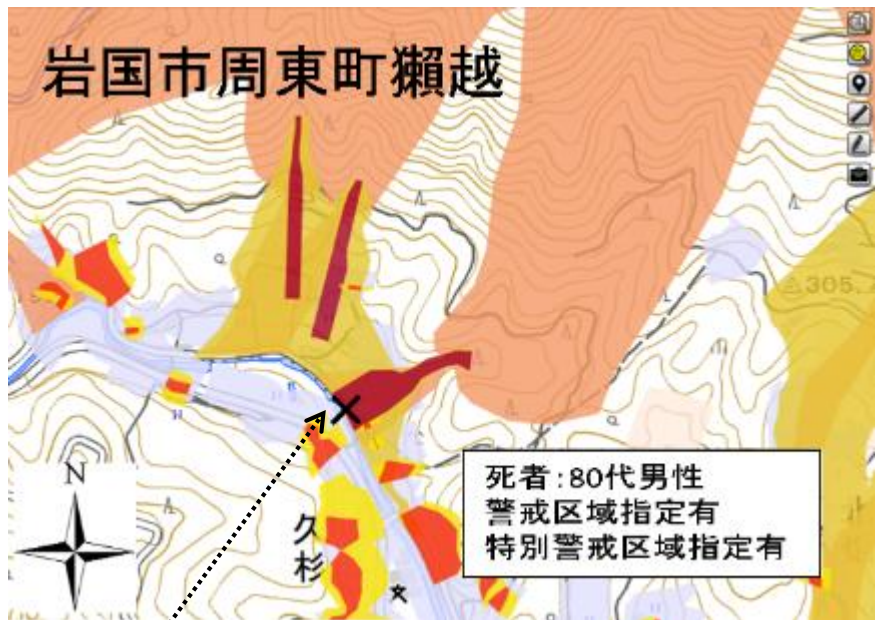
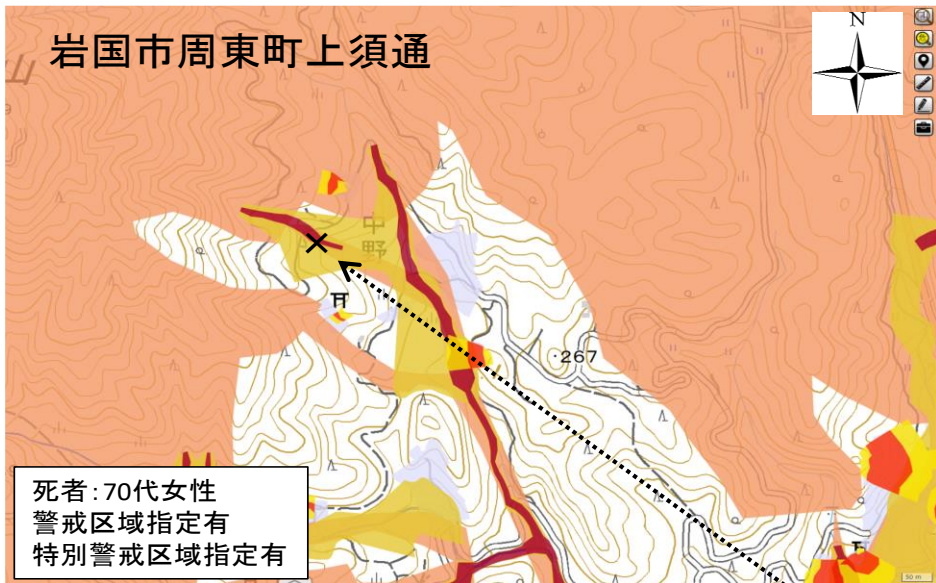
避難情報が出た想定で、
リーダーを先陣に声かけ訓練
をおこない、グループ単位で
避難所まで避難する。

【ハザードマップの有効性と活用】

[2009年防府市土石流災害]

(土砂災害)





被災場所

土砂災害による死者の発生箇所
(被災箇所×)

	土砂災害警戒区域等	解説
	急傾斜地の崩壊 (黄は警戒区域、赤は特別警戒区域)	解説
	土石流 (黄は警戒区域、赤は特別警戒区域)	解説
	土砂災害危険箇所	解説
	土石流危険渓流	解説

参考:平成30年7月豪雨における課題の検証についての結果報告について
国土交通省「重ねるハザードマップ」(2018)より転載、加筆

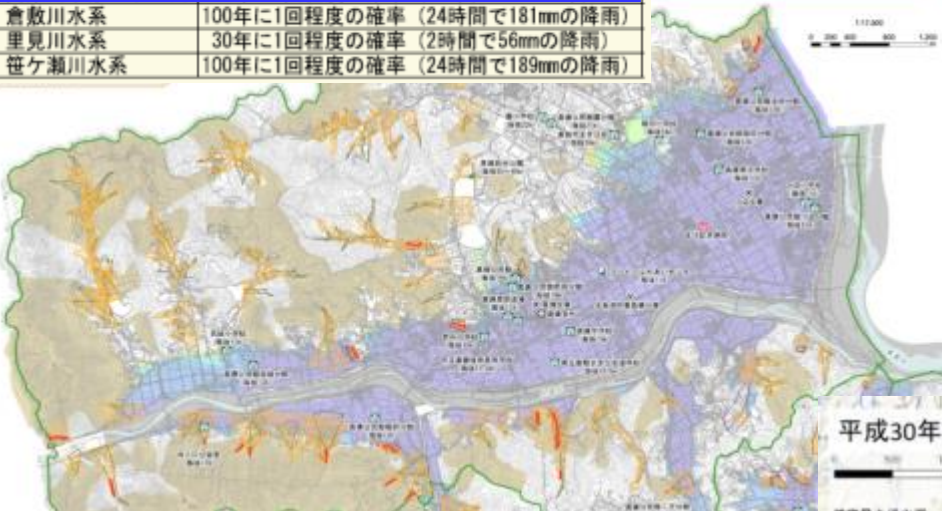
倉敷市 (平成29年作成)
洪水・土砂災害
ハザードマップ
真備・船橋地区



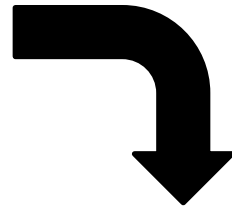
5m以上

Table with 2 columns: 河川 (River) and 想定している降雨の確率 (Probability of assumed rainfall). It lists 5 river systems and their corresponding rainfall probabilities and amounts.

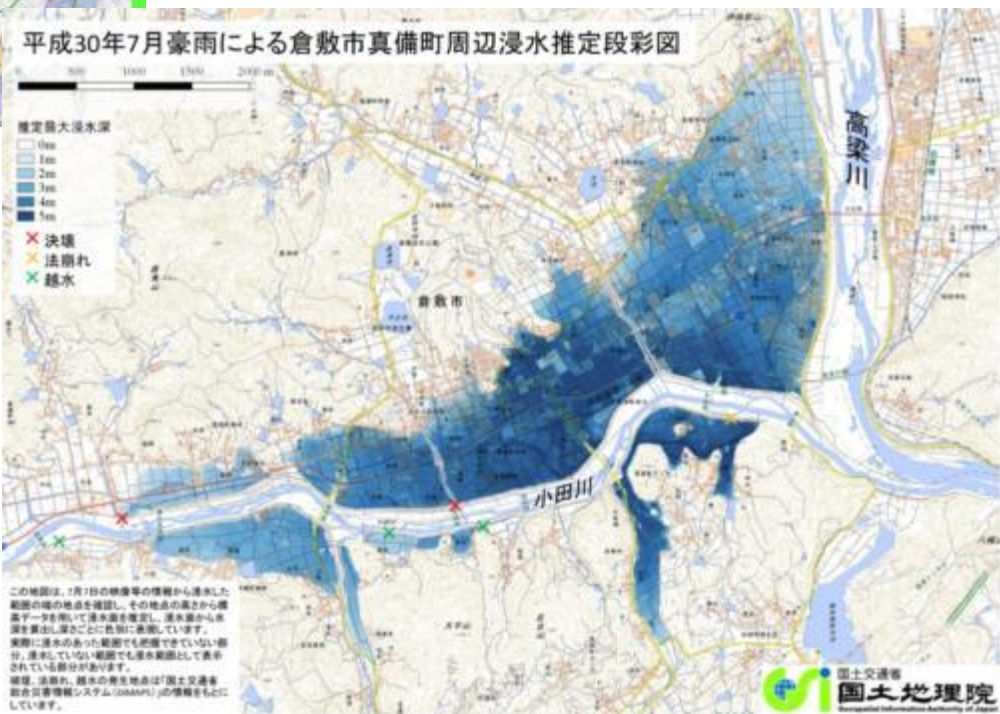
河川	想定している降雨の確率
1. 高梁川水系：高梁川	150年に1回程度の確率 (2日間で248mmの降雨)
2. 高梁川水系：小田川	100年に1回程度の確率 (2日間で225mmの降雨)
3. 倉敷川水系	100年に1回程度の確率 (24時間で181mmの降雨)
4. 里見川水系	30年に1回程度の確率 (2時間で56mmの降雨)
5. 笹ヶ瀬川水系	100年に1回程度の確率 (24時間で189mmの降雨)



土砂災害の範囲や
浸水区域や浸水深は、
ハザードマップの想定と
ほぼ同じだった。



[2018年7月豪雨(岡山県倉敷市真備)]







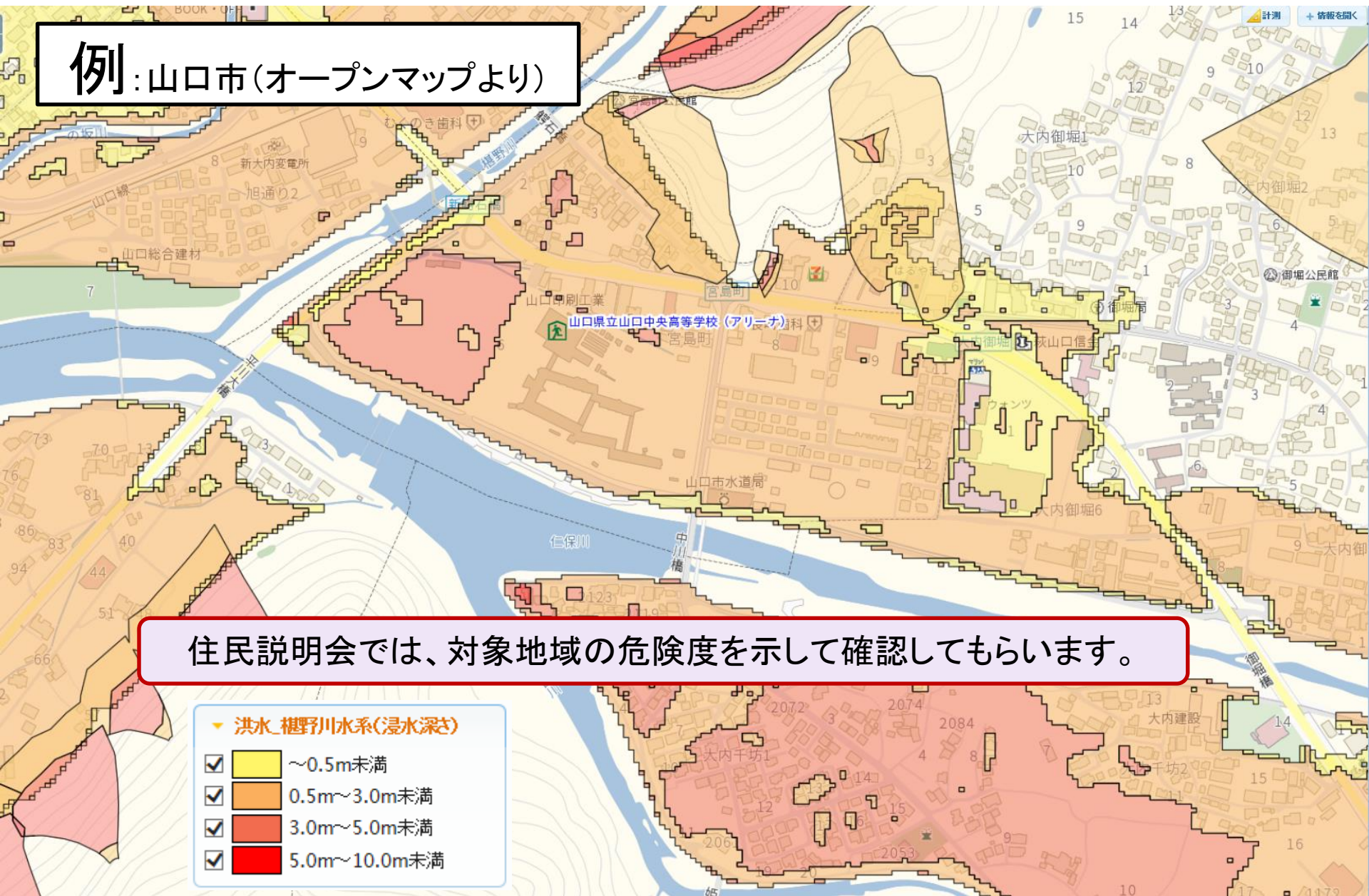
地域(自宅)の災害リスクをハザードマップで確かめてみましょう。

例: 山口市(オープンマップより)

住民説明会では、対象地域の危険度を示して確認してもらいます。

▼ 洪水 樫野川水系(浸水深さ)

-  ~0.5m未満
-  0.5m~3.0m未満
-  3.0m~5.0m未満
-  5.0m~10.0m未満



例：山口市（県土木防災情報システムより）

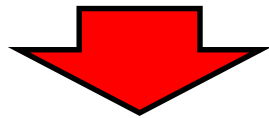


住民説明会では、対象地域の危険度を示して確認してもらいます。

- 地理院地図 (標準地図)
- 地理院地図 (航空写真)
- Google マップ(標準)
- Google マップ(航空写真)

地域や自宅の危険度(災害リスク)を知る

- ・過去の災害を検証してみても
ハザードマップは有効である
- ・市町のハザードマップを確認する
(ハザードマップに書かれている
内容をしっかり読んでおく)



わがまちの災害リスクをハザードマップ
で知っておくことが大切である。

<避難情報について>

【災害のおそれがある場合】

高齢者等避難

警戒レベル3



【災害のおそれが高い場合】

避難指示

警戒レベル4



【災害発生または切迫】

緊急安全確保

警戒レベル5



避難に時間を要する方は危険な場所から避難をはじめましょう。

危険な場所から高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など避難に時間を要する方は避難

※そのほかの方はいつでも避難できるように準備をしておきましょう。

危険な場所から、速やかに全員避難しましょう。

※外出することで、かえって命に危険が及ぶような状況では、避難場所ではなく近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所避難しましょう。

命の危険があります。直ちに安全確保！

※避難場所等への安全な避難ができず、命が危険な状況です。

※警戒レベル5の発令を待つことなく避難してください。

<新たな避難情報等(令和3年5月20日から)>

警戒レベル	新たな避難情報等		これまでの避難情報等
5	 <p>災害発生 又は切迫</p>	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
～<警戒レベル4までに必ず避難!>～			
4	 <p>災害の おそれ高い</p>	ひなんしじ 避難指示 ※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	 <p>災害の おそれあり</p>	こうれいしゃとうひなん 高齢者等避難 ※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	 <p>気象状況悪化</p>	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 <p>今後気象状況 悪化のおそれ</p>	早期注意報情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

< 災害時の情報入手方法 >

防災行政無線

屋外のスピーカーを通じて緊急情報等をお知らせします。



テレビ放送

テレビのデータ放送で、地域の災害情報が流れます。



災害時には通常放送画面にL字型のスペースを作り、地域の情報をお知らせします。

広報車

緊急時は、広報車で市内を巡回放送します。



防災メール

事前に携帯電話に登録すると、気象情報や防災情報がメールで届きます。お住まいの市町ごとに、二次元バーコードやアドレスを入力して登録します。

<〇〇市メール配信サービス>
sossen@sossenmail.jp

QR
コード

ラジオ放送

災害情報が流れます。



エリアメール 緊急速報メール

お住まいの市町の防災情報を、携帯電話（ドコモ・ソフトバンク・auの対応機種）に一斉送信します。

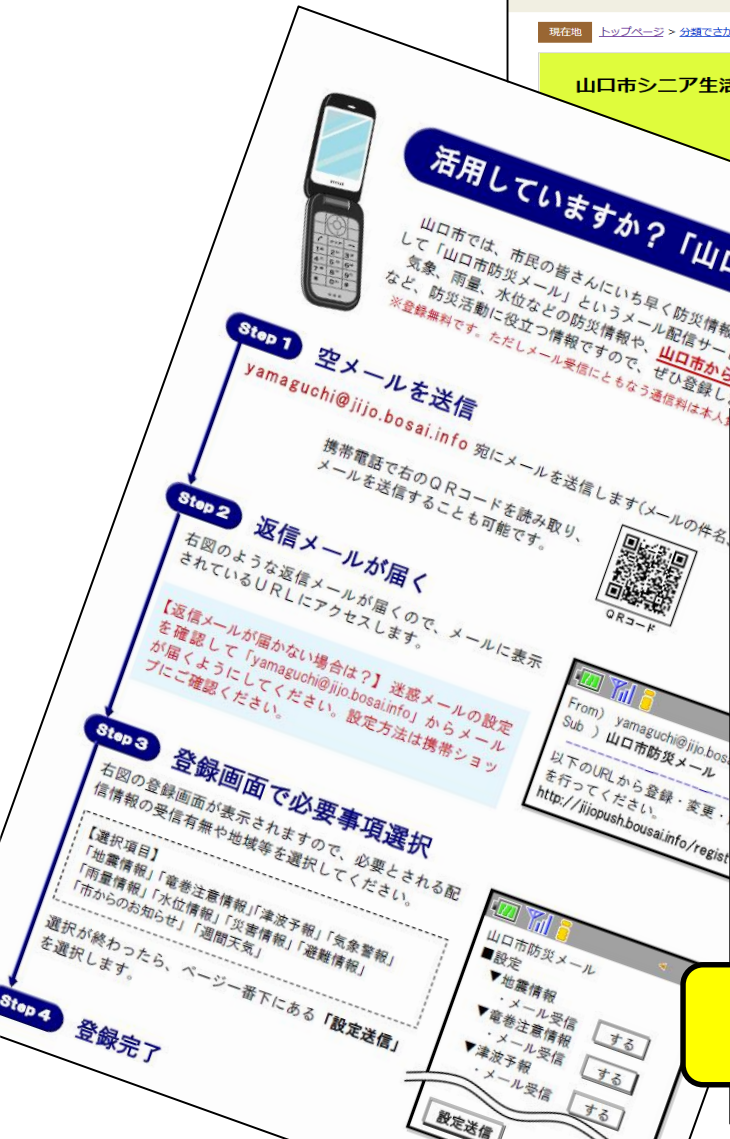


市町 ホームページ

災害情報の放送内容等を随時更新しています。

〇〇市
<https://www.city.sossen.lg.jp/>

<防災メールに登録しましょう(例:山口市)>



「山口市防災メール」で配信される情報

1. 地震情報
山口県中部で震度1以上の地震が発生した場合に震度速報及び震度情報をお知らせ
2. 竜巻注意情報
山口県に竜巻注意情報が発表された場合
3. 津波予報
山口県瀬戸内海沿岸に津波注意報、津波警報(津波・大津波)が発表された場合
4. 気象警報
山口市に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪・波浪・高潮警報が発表された場合
5. 雨量情報
選択した雨量局の時間雨量が30mmに達した場合
6. 水位情報
選択した水位局の水位が水防団待機水位、はん濫注意水位、避難判断水位、はん濫危険水位をこえた場合
7. 災害情報
災害が発生した場合等の緊急情報
8. 避難情報
避難指示(緊急)の緊急情報

利用料なし、通信費のみ

毎週金曜日16時前後に週間天気予報を配信

避難を呼びかける手段の例:「逃げなきゃコール」について

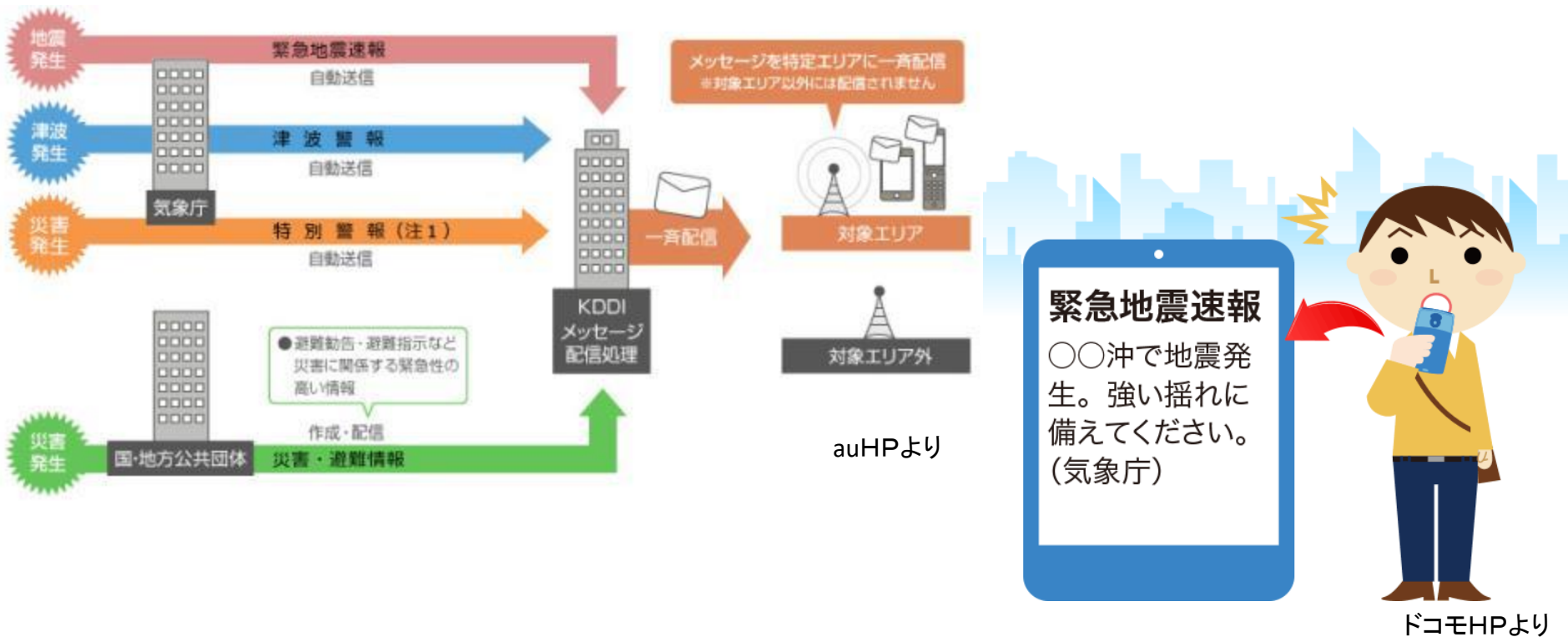
概要

- スマートフォンアプリやショートメッセージサービス(SMS)を活用し、プッシュ型で家族の住む地域の防災情報を入手して、離れて暮らす高齢者等の家族に危険が迫った場合に直接電話をかけて避難を呼びかける(国土交通省)
- 高齢者の家族などが暮らす離れた地域を登録**しておくことで、登録した地域に水害などの**危険が迫った際に**、アプリ等で**防災情報を受け取れる**ようになり、この情報を基に**直接電話等で「逃げなきゃ」と避難を呼びかけて**、**避難を後押し**する。
- 令和元年東日本台風では、同社から配信された災害・避難情報を確認した後、「54%」が**家族等に連絡を取り**、また、連絡を受けた家族等のうち「58%」が**避難行動をとっていた**。



携帯電話から

エリアメール (NTTドコモ) 緊急速報メール (au・SoftBank)



使用料や通信料は無料

使える機種を確認

受信設定が必要な場合も

<テレビのデータ放送で最新の情報を確認しましょう>



リモコンの**dボタン**を押すと、データ放送に切り替わります。
(通常画面は少し小さくなって表示されます。)

<地元のFM放送やラジオ放送で情報を確認しましょう>

さきほど、〇〇市内の〇〇地域に
警戒レベル4 避難指示が発令されました！



<インターネットやスマホで>



山口県庁のHP

防災・災害情報

トップページ

くらし・環境

健康・福祉

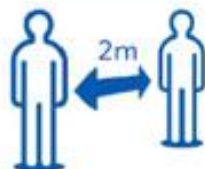
教育・文化・スポーツ

しごと・産業・観光

まちづくり

県政情報

実践「新しい生活様式」



新型コロナウイルス感染症関連情報はこちら

- ◆ 県内の発生状況
- ◆ コロナワクチン情報など



STOP

お知らせ

- ② 新型コロナウイルス感染症関連情報
- ② 熱中症を予防しましょう-「暑さ指数(WBGT)」予報値のお知らせ-

キーワードを入力

検索

検索の仕方

よく使う

採用試験

トップを探す

例：山口市のHP



防災やまぐち

防災やまぐち

ホーム | **気象情報** | 雨量・水位

表示中の災害: 平成30年7月5日からの大雨情報

2019年04月18日 06:07時点

凡例(雨量)

- 250mm以上
- 150mm以上(警戒値超過)
- 100mm以上(注意値超過)
- 50mm以上
- 1mm以上
- 0mm
- 欠測

凡例(水位)

- 注意危険水位(特別警戒水位)以上
- 避難準備水位以上
- 注意危険水位(警戒水位)以上
- 水動(即時警戒水位(通報水位))以上
- 通常水位
- 欠測

凡例(ダム流入量)

- 洪水量以上
- 洪水量の70%以上
- 通常
- 欠測

山口県土木防災情報システム

ホーム | 雨量情報 | 水位情報 | ダム情報 | 潮位情報 | 洪水予報 | 土砂災害 | 気象情報 | リンク集

お知らせ

2019.04.01 山口県土木防災情報システムについて

雨量情報

水位情報

ダム情報

潮位情報

洪水予報

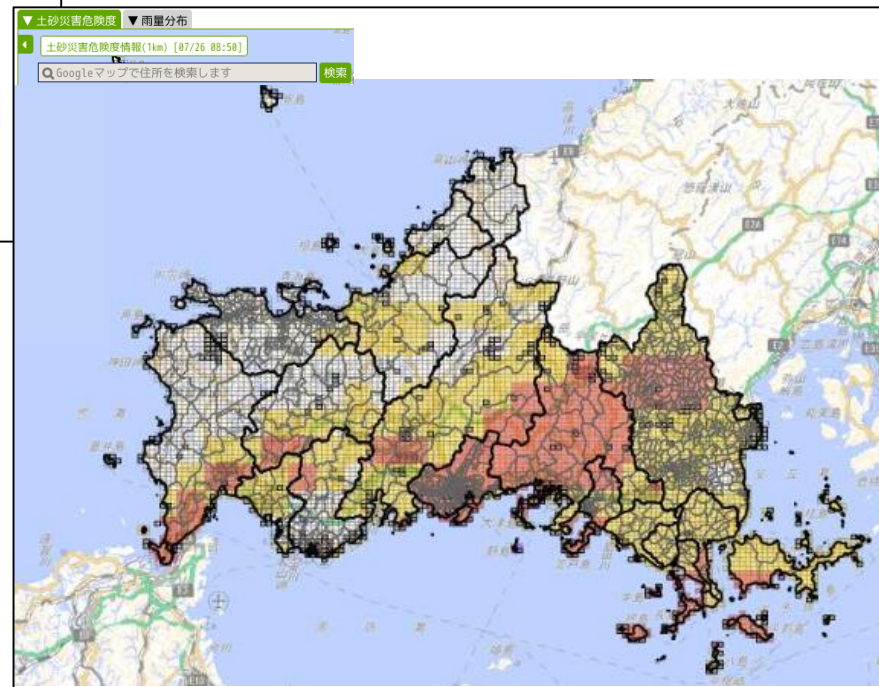
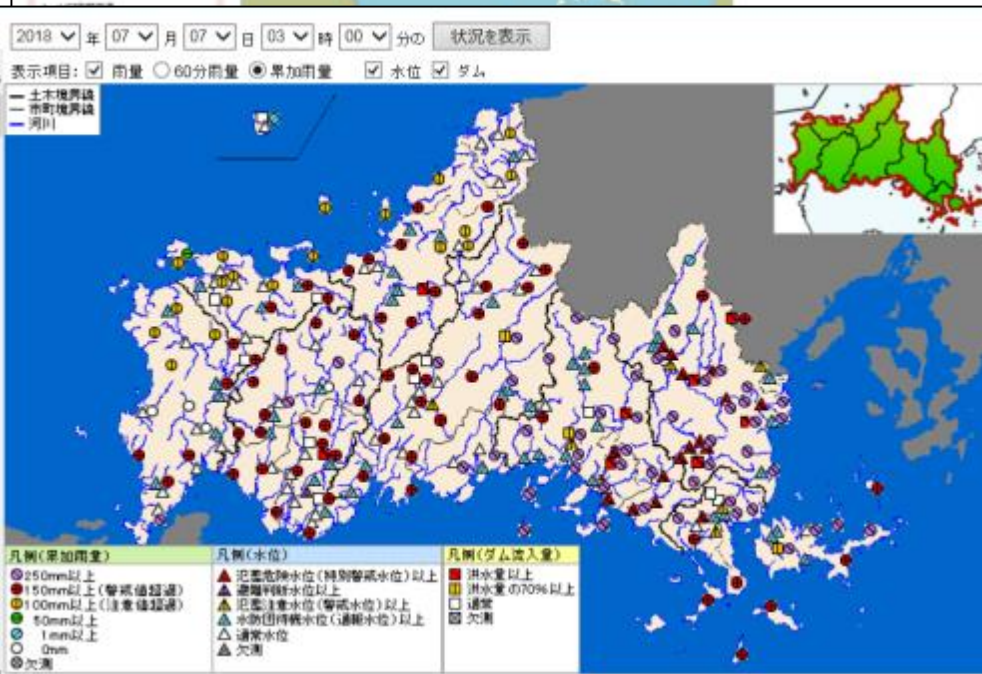
土砂災害

気象庁

スマートフォンサイトへ切替

ケータイサイト

スマートフォンサイト



宇部土木建築事務所

2009年 07月 21日 09時 00分の 状況を表示

- 船木 - 詳細
- 宇部土木 - 詳細
- 厚東川ダム - 詳細

表示項目: 雨量 60分雨量 累加雨量 水位 ダム

- 土木境界線
- 市町境界線
- 河川
- 高速道路
- 国道
- 県道



山口県全域詳細マップ

- 凡例 (60分雨量)
- 100mm/時間以上
 - 50mm/時間以上 (警戒値超過)
 - 30mm/時間以上 (注意値超過)
 - 20mm/時間以上
 - 1mm/時間以上
 - 0mm/時間
 - ☉ 欠測

例: 山陽小野田市 (県土木防災情報システムより)

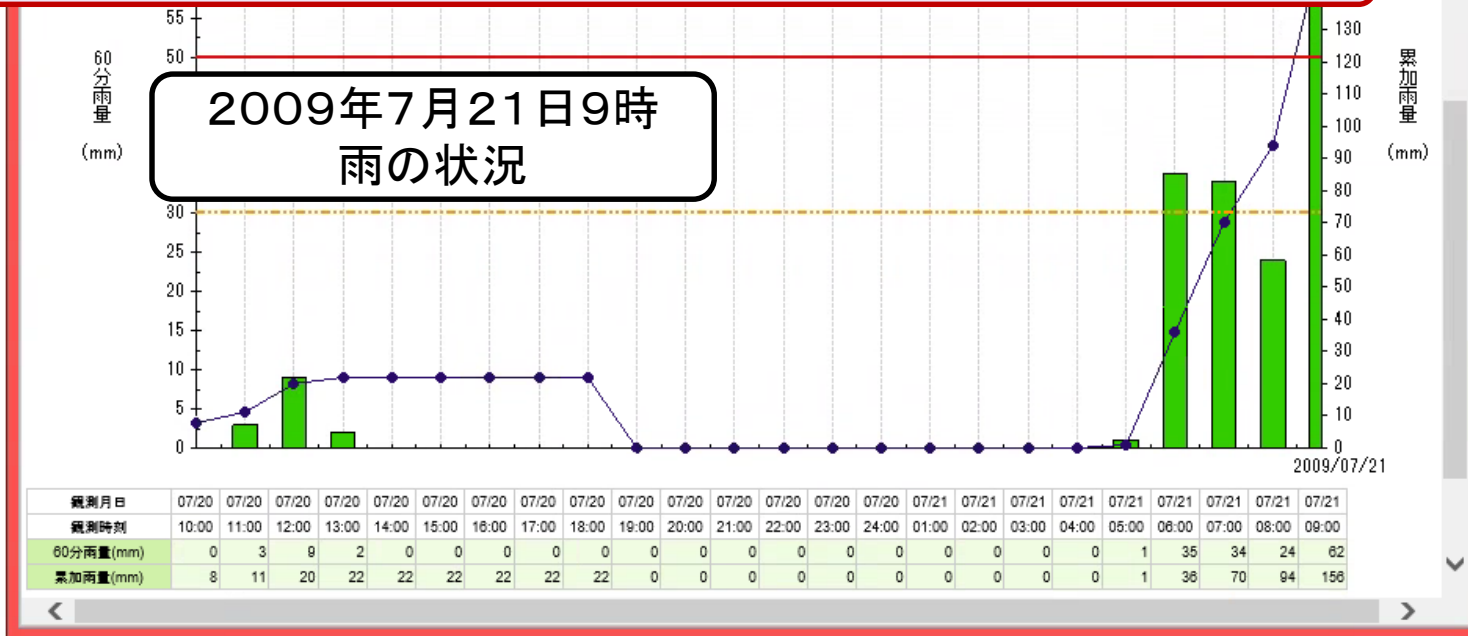
- 童王 - 詳細
- 東側 - 詳細
- 赤郷 - 詳細
- 秋吉台 - 詳細
- 万光 - 詳細
- 岩永 - 詳細
- 美祿大橋 - 詳細
- 半田 - 詳細



雨量グラフ | 山口県土木防災情報システム - Internet Explorer
 http://y-housai.pref.yamaguchi.lg.jp/citizen/rain/krf_graph.aspx?stnco=078&obsdt=200907210900&px=1

住民説明会では、対象地域の危険度を示して確認してもらいます。

**2009年7月21日9時
雨の状況**



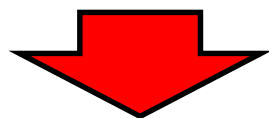
避難に関する情報をどうやって知ればいいのか

・情報の種類や内容を理解する

レベル3～ 危険な場所から、高齢者等は避難

レベル4～ 危険な場所から、全員避難

・テレビ、ラジオ、携帯、インターネットなど 自分にあつた情報入手手段を見つけておく



いざという時に備えて、平常時から
複数の情報の入手手段を試しておく。

呼びかけグループのイメージ
(一例)



率先地域



呼びかけグループは10世帯以内で構成しましょう。

リーダー（情報を伝える人）



班長

（避難の呼びかけをする人）

- ①避難情報を知る手段がある
- ②グループ内の住民と顔の見える関係が築けている
- ③携帯やスマホでメンバーに連絡ができる
- ④グループ内の住民が理想だが、グループ外の住民で、自主防災組織委員、消防団員、防災士などが担当してもよい。

※リーダー兼班長の場合は
2人以上で担当しましょう。

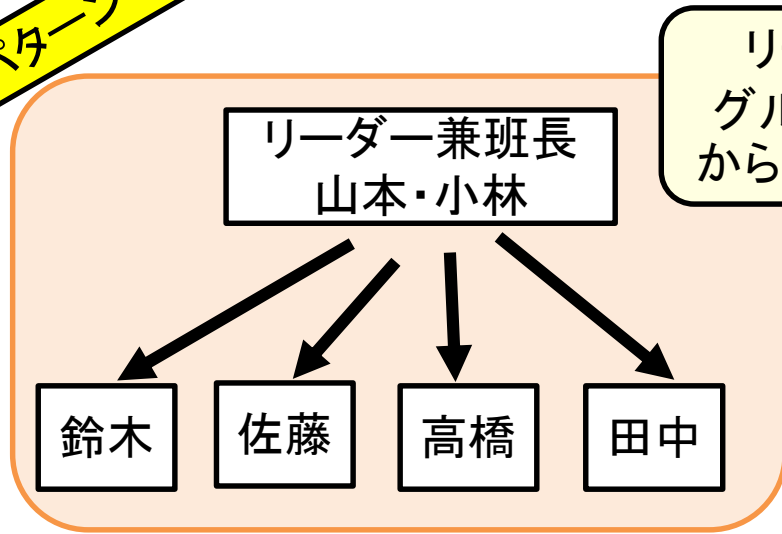


班員

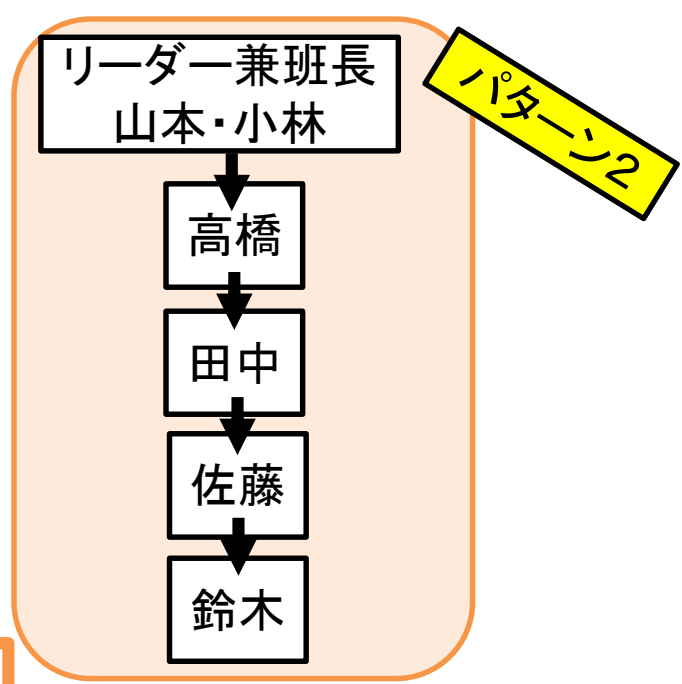


地域によって事情は様々です。
この条件にとらわれず、
グループ内の構成を考えながら、
やりやすい手段を考えてみてください。

パターン1



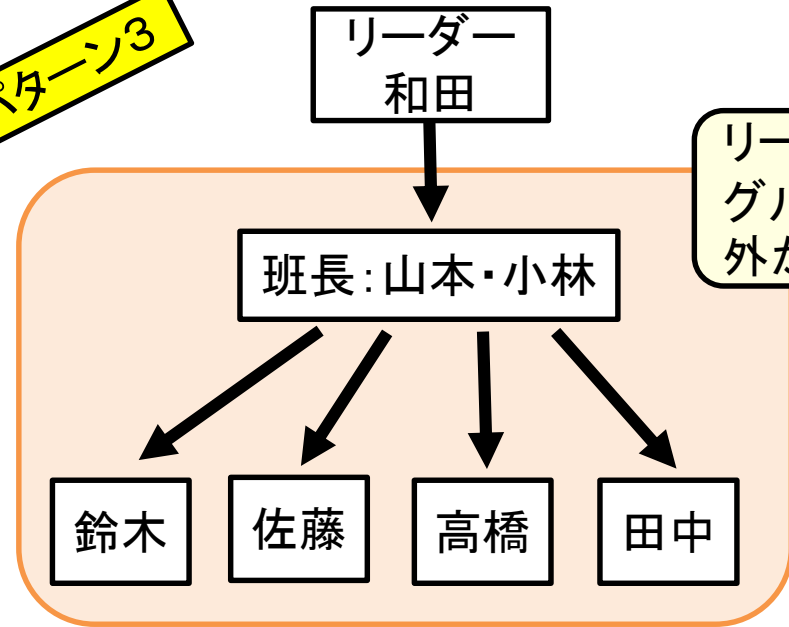
リーダーをグループの中から選ぶ(2人)



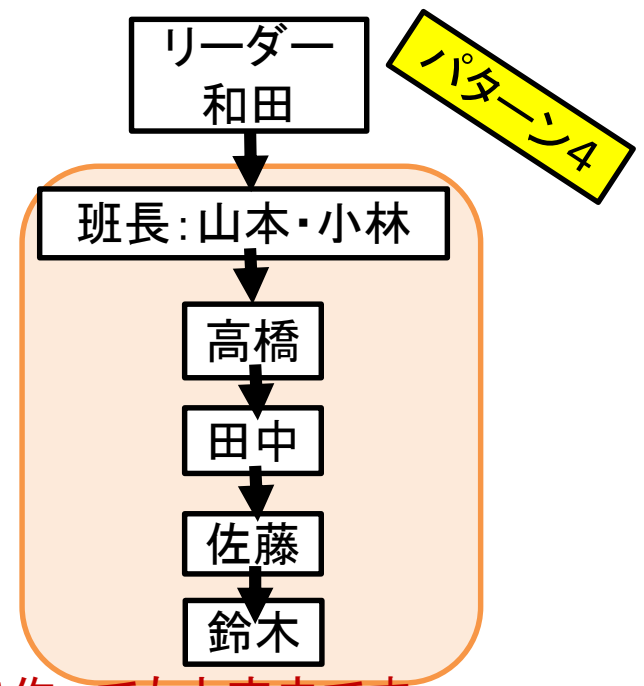
パターン2

【グループ分けの4事例】

パターン3



リーダーをグループの外から選ぶ



パターン4

※地域の状況に合わせて、他のパターンでグループを作っても大丈夫です。

呼びかけグループづくりのイメージ例

1班

率先地域

2班

3班

4班

6班

5班

7班

<パターン1・2>

Ⓐ Ⓑ

リーダー兼班長

Ⓔ
Ⓐ Ⓑ
Ⓓ Ⓔ
Ⓒ Ⓕ Ⓖ

<パターン3・4>

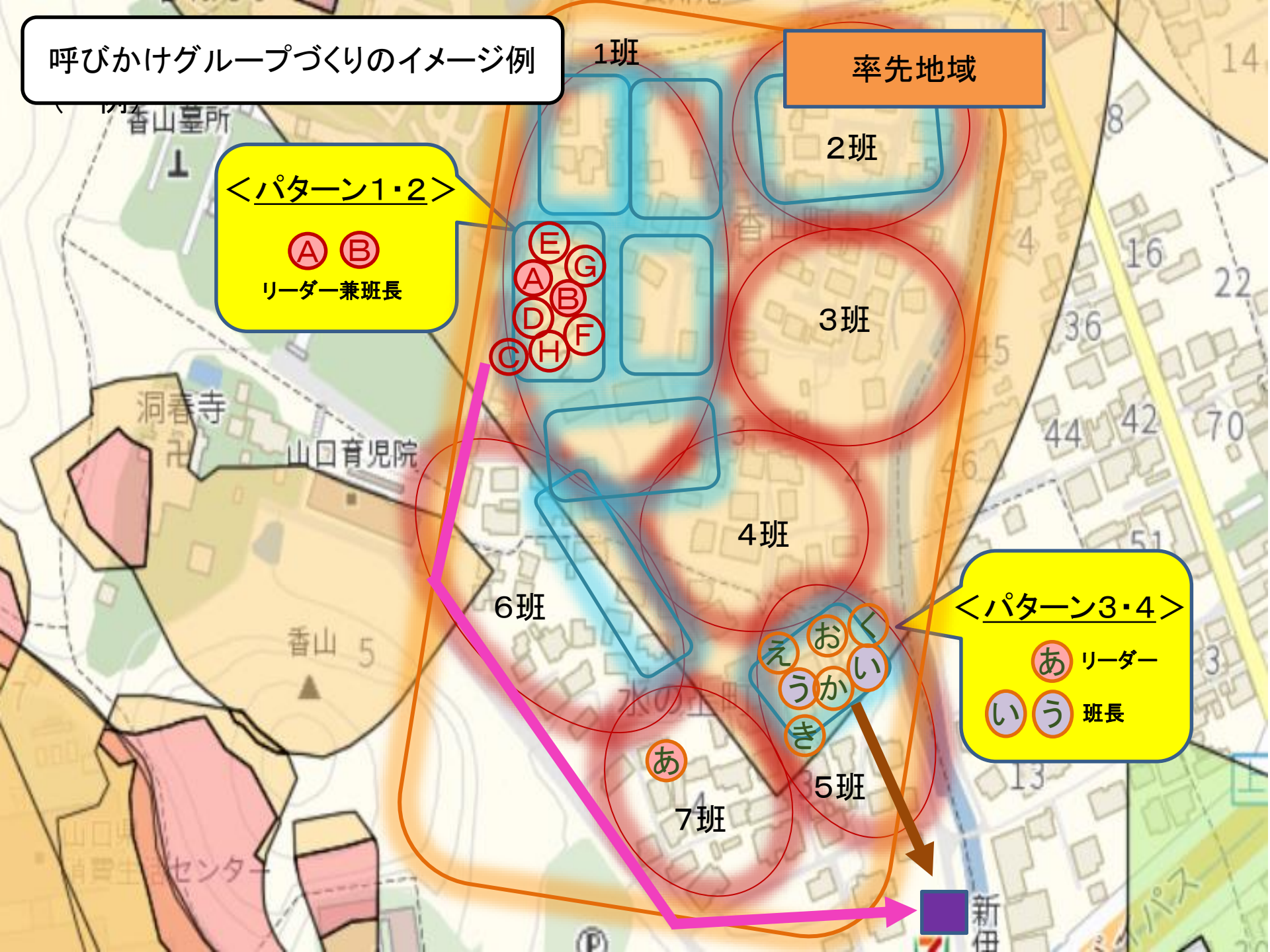
Ⓐ リーダー

Ⓘ Ⓤ 班長

Ⓔ
Ⓐ Ⓑ
Ⓓ Ⓔ
Ⓒ Ⓕ Ⓖ



新伊



連絡網(例)

～班員の災害リスクと避難先を地域(班内)で共有～

リーダー	藤田	090-xxxxx-xxxxx
	阿部	090-xxxxx-xxxxx

	名前	人数	連絡先	災害リスク	避難先
班長	山口〇〇	2	090-xxxxx-xxxxx	土砂(黄)	〇〇公民館(避難場所)
	山本〇〇	1	090-xxxxx-xxxxx	土砂区域外	家屋内の安全な場所 (崖から最も遠い部屋)
班員	高橋〇〇	1	090-xxxxx-xxxxx	土砂(赤)	〇〇公民館(避難場所)
	田中〇〇	3	090-xxxxx-xxxxx	土砂(赤・黄)	子供の家(町外)
	藤井〇〇	1	090-xxxxx-xxxxx	土砂・洪水区域外	家屋内の安全な場所 (2階)
	佐藤〇〇	1	090-xxxxx-xxxxx	土砂区域外・浸水1m未満	家屋内の安全な場所 (2階)
	鈴木〇〇	2	xxxxx-xx-xxxxx	土砂(黄)	藤井さん宅(2階)

〔注意事項〕

- (1) 避難先を変更する場合は班長へ連絡をすること
- (2) 電話連絡の場合、名簿の最後の方は、班長へ連絡をすること
- (3) ……

【避難訓練(例)】

リーダーさんの行動	班長さんの行動	住民の行動
<p>班長さんに伝える 「〇〇〇〇の情報が出ましたので、グループの方にお知らせください。」</p>	<p>グループ内に電話または呼びかけ「〇〇〇〇の情報が出ました。状況によっては避難するかもしれないので、準備をしておいてください。」</p>	<p>避難できるように準備をしておく。避難に時間がかかる人はこの時点で避難所へ。</p>
<p>班長さんに伝える 「〇〇〇〇の情報が出ました。危険が迫っているので、すぐに避難するようお知らせください。」</p>	<p>グループ内に電話または呼びかけ「〇〇〇〇の情報が出ました。危険が迫っているので、すぐに避難しましょう。△△△の集合場所に集まってください。」</p>	<p>班長の指示に従い、避難するため集合する。手伝いが必要な方は協力しあう。</p>

全員の集合を確認をして、避難所へ移動する



〇〇〇〇の情報例

- ・レベル3(高齢者等避難)
- ・レベル4(避難指示)
- ・土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報
- ・その他、災害の前兆現象

(裏山で変な音や臭いがする、沢の水の流れや色の状況、家の前の水の流れなど、いつもと違う様子を感じたら、班長さんに伝え、自治体の情報を待たずに避難しましょう)

グループ内に避難の呼びかけ

全員の確認をして、避難所へ移動する

避難所まで遠いグループや
早めの避難なら
車で乗り合せても可
避難所の担当者に、
避難時の駐車スペースの確認を

避難所まで行けなかったら、
途中で避難する場所はある？

避難所まで歩いてみて、
避難時にどんな危険があるか
チェックしてみましょう。

- ・水路があふれたら？
- ・マンホールは？
- ・ブロック塀は
- ・道が通れなかった場合は
迂回路はある？

曜日や時間帯をかえて
定期的に訓練を行いましょう。

避難所

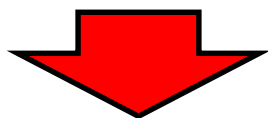
避難所についたら、
振り返りの話し合いをして
次回の訓練に活かしましょう。



※市町が指定した避難所に行くだけでなく、垂直避難や水平避難、知人宅や家族・親類の家など、状況に応じてより安全な場所へ避難するようにしましょう。

率先避難の体制づくり⇒避難訓練

- ・声のかけやすい10世帯以内が目安で、班長は2人以上。情報を確認するリーダーは班以外の住民でも可能
- ・リーダーをきっかけに、班長から住民へと電話連絡や呼びかけ訓練を実践。



地域の状況は様々です。
地域にあったやり方ですすめながら、
よりよい体制を作り上げて下さい。

逃げ遅れゼロへ！



率先避難の体制づくり⇒マイタイムラインの検討を 自助意識を向上し、避難の実行力を高めましょう！

避難の呼びかけがあったらすぐに避難できるように、地域の避難体制に合わせて、個人や家族で、「いつ、誰が、何を」するのかを、事前に、検討して整理しておきましょう！



マイタイムラインを作成

(作成例)

	大雨の前日～ (雨が降り始める)	大雨の数時間前 (警戒レベル3 高齢者等避難発令)	大雨となる (警戒レベル4 避難指示発令)	避難所到着 (避難所まで約15分)
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・気象・防災情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが防災メール等で確認し、連絡網で要配慮者の避難を呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが、防災メール等で確認し、連絡網で全員の避難を呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難を呼びかけた班員の避難状況を確認 ・立ち退き避難が必要な方で、避難していない人には、再度、電話で避難を呼びかけ
個人 家族	<ul style="list-style-type: none"> ・気象・防災情報収集 ・ハザードマップ確認 ・備蓄や非常持出品等の確認 ・避難経路等の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象・防災情報収集 ・いつでも避難できるよう、避難場所、避難経路等の再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気ブレーカーを切る ・ガスの元栓を止める ・非常持出袋をもって、直ちに避難を開始 ・隣のAさんも一緒に避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の受付で、避難者氏名等を報告

(参考資料)「タイムライン作成の手引き」・・・地域や住民によるタイムライン作成を支援するために県が策定した手引きです。
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/0/6/6/0668b45bdf2eaa316870a50ecdeb1631.pdf>)